第 50 回東葛しぜん観察会

春の里山とニュータウン

岩根悦子(船橋市)

日　時：2009 年 5 月 10 日（日） 9：30～12：30
場　所：千葉ニュータウン
天　気：晴れ
参加者：大人 42 名、子ども 1 名　　指導員 17 名　　合計 60 名
担当指導員：坂巻真有美　林信子　吉田祥子　岩根悦子

定例開催の第 1 日曜日が、連休のため第 2 週になったこの日、春というより夏を思わせる強い日射しの観察会になった。

昨年雨で中止になった「春の里山とニュータウン」の観察会を、ぜひことし実現してほしいと願った。そして自らも担当に加わっての参加になった。参加者がそれほど多くならないと予想していたが、40 名を超えそうだとなり、開催間近に急遽指導員の応援をお願いしたり、あわただしくなってしまった。にもかかわらず、当日は応援指導員たちが早い時間から集まって、心強いスタートになった。

コースの一部である県立北総花の丘公園は 4 月 1 日に拡張オープンした。駅前のそっけない風景に代表されるニュータウン、そのすぐ後ろに広がる里山の魅力をどう紹介できるか。担当 4 人はお正月気分抜けやらぬ 1 月 12 日、ニュータウンで開かれた探鳥会に参加し、オオハクチョウなどの冬鳥をはじめ、オオタカのりりしい姿やノスリ、なんとイタチにも出会えた。そしてクルマにひかれたタヌキにも…。厳しい冬から木々の芽吹き、新緑の季節まで、担当全員がニュータウンを訪ね、楽しみながら里山を満喫した。そして懐かしく心惹かれるものの正体や観察会のテーマが訪れるたびに鮮明になっていったようだった。

一方で 4 月の拡張オープンに向け花の丘公園が徐々に姿を変えていた。小雨決行のため雨天用のショートコースを決めたかったが、決められずに冬から春へ季節が進み、私たちの観察会も目の前に迫ってきていた。そして植物たちは訪れるたびにめまぐるしく姿を変え続け、消え去り、過去形になっていく…。

一番のショックは主役のはずの在来タンポポが当日ほとんど姿を消してしまったことだった。在来タンポポの咲く道を歩き、帰化タンポポとの違いを知ってもらおうと、「ボタニカル講座」と名付け、タンポポの総苞の部分を点線で囲み、そこに見たままを描いてもらおうと資料をつくったのだが。タンポポが少なくなっていたが、連休中に田植えの済んだ田んぼではカエルの鳴き声やトンボの姿に出会えたけれど。

カエル・ヒバリの声を聞きながら歩く

自然は移りゆくものという当たり前のことを、緊張感とともに再確認させられた。でも参加者にはニュータウンのすぐ近くにある里山の姿、その大切さを感じてもらえたように思う。

急な暑さでの水分補給や、安全、時間管理、担当指導員へのフォローなど、応援指導員たちが早朝の受付から始まって万全のサポートをして下さり、感謝の気持ちでいっぱいになりました。